

# Book Review



## 新編 治癒の病理

臨床の疑問に基礎が答える

下野正基 著



Reviewer

下地 勲

(東京都・しもじ歯科クリニック)

A4 判変, 388 頁  
定価 19,950 円  
(本体 19,000 円+税 5%)  
医歯薬出版刊



23 年前に夢中で読んだ、あの不朽の名著『治癒の病理—ペリオ・エンドの臨床のために—』がさらに大きく生まれかわって蘇った。当時、筆者は「臨床の現場では基礎歯学と臨床の接点は少ない」と感じていたが、その本によって、両者を結びつけることの重要性を学ぶことができ、診療の方向が変わった。それだけに、同じタイトルでの復活に懐かしさと感動を覚えた。

著者の下野正基先生は 30 年以上も前から、臨床家の疑問に常に真剣に耳を傾けられ、難解な基礎歯学の最新の知見を臨床家にも理解できるようにわかりやすく、しかし非常に奥深い論理的な記載で多くの書籍、論文を精力的に執筆してこられた。当時から下野先生が臨床に真に寄与する病理学の発展に努めたい旨を講演会等でおっしゃっていたことを、今でも鮮やかに思い出すことができる。そのことが、わが国の臨床家が基礎の内容に無理なくふれる好環境をつくりだし、臨床の質的向上に多大な影響を与え続けたことは、今でも多くの臨床家の間でたびたび話題になるほどである。そのような状況がすでに存在していたなかで、EBM (Evidence based medicine) の概念が歯科界でも強調され始めたとき、今さら何を、と感じたものである。

臨床開業医は日々、さまざまな疑問をもちながら臨床にあたっている。治

療が思い通りにいかない場合、テクニカルな原因のみならず、理論背景となる基礎の見解を詳しく調べるのは当然であるが、治療が予想以上に成功した場合でも、その結果はたまたま生じたのか、それとも、すでに基礎の領域では確証が得られていることなのか、つまり客観性、科学性を有しているのかどうかを点検し考察することは、臨床家にとって重要な課題となる。そのことによって治療レベルが発展することが保証されるからである。

その際、筆者の場合、過去においては、常に最大の参考文献として信頼してきたのが 23 年前の『治癒の病理』であり、その後発行された臨床編 4 冊であった。そして、今後は『新編・治癒の病理—臨床の疑問に基礎が答える—』にバトンタッチされることは間違いない。

本書は「歯周疾患」「象牙質・歯髄複合体」「移植・再植・歯の移動」「インプラント」の広範囲に及ぶ、4 項目から構成されている。前回の「治癒の病理」も明快で理解しやすかったが、今回は、白黒ではわかりにくかった組織図を含め美しいフルカラーに、本文、図説はより簡潔に、表、イラストなども増え、驚くほど理解しやすくなっている。内容全体も最新の知見が網羅され、前作以上に臨床を密接に支える情報に満ちあふれている。

臨床家にとっての圧巻は、4 項目それぞれの最後に、臨床で生じるさまざまな疑問と、それに対する臨床にすぐ役立つ実践的な回答が Q & A の形で 70 近くも丁寧に記載されている点である。この質問群には、実際の下野先生の講演会などで出された身近な質問も多く含まれており、臨床家なら思わず「知りたい、読んでみたい!」と思う内容に富んでいる。これなら、本の最初から目を通さなくても、まず、興味のあること、あるいは現実に困っている疑問点を中心に読み重ねていくうち、自然に臨床と直結する生きた基礎の知識が蓄積されていくであろう。

歯周病の患者さんのプラークコントロールの能力を身につけてもらうためにわれわれがさまざまな工夫をこらしてモチベーションをはかるのと同様、本書には、基礎歯学の文献を読むのが苦手でも多忙な臨床家が読んでくれるような細かい仕掛けが随所に用意されている。しかも、それらは教科書的、無味乾燥なものではなく、下野先生のご信念である「常に臨床と関わる基礎」の記載であるため、“生きた”知識として読者に植え付けられるよう配慮されている点が従来の基礎の書籍と比較した最大の特徴である。

臨床のレベルアップを望む多忙な臨床家にこそ、ぜひお薦めしたい待望の一冊である。